



年頭挨拶

北海道開発局長 鈴木英一

明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年、当局職員及び元職員が、談合事件で有罪判決を受けたことは誠に遺憾であり、国民・道民の皆様の信頼を損ねたことを改めて深くお詫び申し上げます。再発防止策の徹底を図り、一日も早く、国民・道民の皆様の信頼を回復できるよう全力で取り組んで参りたいと考えています。

昨年を振り返って見ますと、アメリカに端を発した金融危機の影響から日本経済は急速に悪化し、北海道を取り巻く情勢も、道内企業の倒産、雇用情勢の悪化、交通機関の航路撤退など、ことのほか厳しい状況が続きました。

こうした中、北京オリンピック、パラリンピックにおける道産子選手のすばらしい活躍等、明るい話題もありました。また、食の安全・安心への関心が高まる中、食味が良く、クリーンな道産米が道内外から高い評価を受けるなど、北海道の魅力がさらに高まりました。

7月には、北海道洞爺湖サミットが開催され、北海道の魅力の世界にアピールすることができ、国内外から北海道に対する大きな関心・注目が集まりました。サミット開催を契機に、国際会議等の北海道誘致促進が閣議了解され、昨年12月には、第1回G8水と衛生に関する専門家会合が帯広市で開催され、本年5月には、第5回日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議が占冠村で開催されることも政府決定し、北海道の優位性が世界的にも認知されたところです。

これらは、関係者の皆様の努力はもちろんです。長年にわたり推進してきた高規格幹線道路、国際港湾、国際空港、農業生産基盤などの開発事業が効果を発現し、地域の競争力アップに寄与している面が大きいと考えています。

今年は、昨年7月に閣議決定された「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」に基

づき、計画に掲げられた主要施策を多様な主体と連携を図りながら積極的に推進して参ります。

北海道開発局としては、新たな計画に基づき、特に、道外や海外を結ぶ港湾、空港などのゲートウェイ機能の強化を図るとともに、高規格幹線道路などの基幹的なネットワークの整備を推進することで、北海道の安全で高品質な農水産物を道内外に安定的に供給し、観光交流の拡大を図るなど、北海道全域の実力を最大限発揮できるような環境整備に努めていきたいと考えております。また、道民の生活や持続可能な経済社会活動を支える防災対策も着実に推進していきます。

さらに、道内の各地域が独自性のある発展を目指していくために、北海道開発局は、北海道や市町村、民間団体など地域の多様な主体とともに、地域の目指す姿やこれを実現するためのプロジェクトなどから成る「地域づくりの方向」を策定し、ハード・ソフトの両面にわたる連携・協働に取り組んでいるところです。

国、地方とも財政事情が厳しい中、事業の実施に当たっては投資効果を高めるため、お互いが連携を図りながら、コスト縮減等に努め、「選択と集中」の考え方に基づき重点化・効率化を図って参ります。

昨年12月に政府の地方分権改革推進委員会から、国の出先機関の見直しに関する第2次勧告が出されました。当局としても、今後の動きを注視していかなければなりません。まずは与えられた責務を果たし、日常の業務を着実に遂行することにより、北海道開発局に対する国民の期待に応えて参ります。

私たちは、より厳しさを増す社会情勢の下、道民・国民の要請に応える開発行政を推進するため、一丸となって開発局の役割、使命を果たしていきたいと考えておりますので、本年もご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

最後に、今後一年間の皆様のご健康と益々のご活躍を御祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。